

協 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 開会のあいさつ

2. 辞令交付

3. 会長・職務代理者の選出

会長に河井委員、職務代理者に山元委員が選出された。

4. 自己紹介

5. 会長あいさつ

6. 協議事項

協議事項① 令和6年度図書館の事業報告及び利用状況について

(事務局) 資料に沿って概要説明。

(田島委員) 6ページの年齢区別の利用状況を見ると、一番本を読んでもらいたい7歳から15歳の利用が少ない。おはなし会や子ども司書養成講座などを開催しているようだが利用にはつながっていない。小中学校も含めた対応が必要ではないか。

(立山委員) 学校図書館を使っていれば問題ないが、もし学校図書館もあまり利用していないなら対策が必要だ。

(河井委員) 学校図書館の利用状況がわかるものを参考資料として添付してもらいたい。トータルで見ないと利用の実態がわかりにくい。電子書籍も図書館蔵書と同じように捉えるなら次回から資料にしてももらいたい。

(山元委員) 図書館利用カードを一律に児童生徒に配っているのか。タブレットから簡単に図書館ホームページにアクセスできれば紙媒体の貸出数も上がるのではないか。

(事務局) 利用カードを全員に渡すことはしていないが、電子書籍のアカウントは全員に作成している。

(吉住委員) 中学校は朝読をしているが、図書館から借りた本ではなく自分で用意した本を読む生徒もいる。電子書籍の案内もしているが、全ての本があるわけではない。中学生の7割から8割が部活動や地域クラブに所属していて、図書館に来るのが難しい現状がある。

(河井会長) 電子書籍の方針を決めてどこにターゲットを絞るか考えて購入したほうが良い。忙しい生徒にはタブレットを使って本を読んでもらうような提案も必要だ。文字を読む、物語を味わうという経験が読書につながっていく。

(山元委員) 電子書籍の小中学校への浸透度について伺いたい。ポプラ社から出ている子どものための読み放題型電子図書館「MottoSokka! (もっとそっか!)」「Yomokka! (よもっか!)」がどの程度活用されているのか。

(吉住委員) 把握していない。

(河井委員) 図書館が提供しても良いし、教育委員会が一括して全ての学校に準備するという方法もある。

協議事項② 令和7年度図書館運営方針及び事業計画について

(事務局) 資料に沿って概要説明。

(河井会長) 前回の協議会で「共働」という言葉について指摘があった。

(事務局) 冊子を作るときに注釈を入れる。

(安徳委員) 運営方針の(3)で「郷土の歴史や文化を未来につなげる」というテーマがあるが、世界遺産群のことが学べるようなものが図書館にあれば教えてもらいたい。

(事務局) カメリアステージ図書館では文化財課と協力して「ふくつなはなし」という発掘調査の読み方を学ぶ講座を毎年開催している。また、小学生を対象にした資料館の見学会も開催している。

(河井会長) 別々にイベントを開催しているようだが、2館が協力して1つのイベントを開催することを考えてみてはどうか。

(事務局) 検討する。

(田島委員) 運営方針の中に郷育カレッジが出ているので郷育推進課長にお伝えしたい。郷育カレッジの開催日が平日なので、現役世代は参加しにくい。土日の開催を検討してもらいたい。

(事務局) 現在、ほとんどの講座を平日に開催している。運営委員会でも土日開催の話が出ている。夜の開催も含めて検討したい。

(山元委員) 事業報告を見るとひと月に2つ以上のイベントをしているようだが、イベント数が多くて図書館職員の負担になっているのではないかと懸念する。もし、そういうことがあるなら、あまり手応え

のなかったものは見直したり、先程、話が出ていた合同で開催したりするなどして負担軽減を図ってもよいのではないか。必ずしも前年と同じである必要はない。

(河井委員) スリム化と同時に、実施する事業について「図書館でこんなことをしています」という発信を確実にやっていくことが大事だ。ターゲットを絞ってPRするのも一つの方法だ。

(事務局) 必要に応じて取捨選択していきたい。

その他

(田島委員) 利用者アンケートは今年も実施するのか

(事務局) 実施する。

7. 次回の日程について

(事務局) 第2回目は11月頃を予定している。

以上